

(道徳)

道徳の授業を充実させよう

～自己と向き合い、主体的・対話的な深い学びを進める～

大阪市立関目東小学校 廣瀬 裕介

1. 主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「ルールを守れて、みんなと仲良くできる子」とし、重点課題として、「心」「健康・体力」「学力」を挙げている。その中でも「心」の教育として道徳教育を行っている。道徳教育の重点目標は「規則・ルールを遵守する」「仲間・集団意識を醸成する」「相手の考え・立場を尊重する」の3つとしている。その実現を目指して、本校では、27年度より道徳の時間の研究をすすめている。道徳の時間の中で、子どもたちに道徳的実践力を育成していきたい、日々の国語科の授業で習得したスキルを発展させながら、互いの意見を聞きあったり、話し合ったりして、その活動によって自分のよさに気づき、自己を振り返らせたい。子どもたちが、このあと生きていく中で出会う様々な場面で、自分はどう生きていくのかを見つける力をつけさせたい、自分自身のことに関心をもち、何事にも主体的に考えてほしいという思いから、約3年間に及んで道徳の研究に取り組んでいる。昨年度は「30年度の教科化をめざして、道徳教育を深めていく」を主題に研究をすすめてきた。昨年度と同様に道徳の資料の中に入り、登場人物と自分自身とを寄り添わせ、葛藤を味わい、そして自分自身と向き合う。そして自己を振り返り、自分自身の弱さや、人としての大切な道徳心に対話の中で出し合える、このような時間をどうすればつくることができるのかと思い、今年度も「道徳」の研究を進めることとしたものである。心に響く道徳教育を工夫し、資料をもとに学習を展開する中で、子どもたち一人ひとりが自己と向き合いながら主体的・対話的に学習ができる授業を今年も研究したいと考え、研究主題を「道徳の授業を充実させよう～自己と向き合い、主体的・対話的な深い学びを進める」に至った。

2. 研究の視点

(1) 主発問・ワークシートの工夫

主発問を中心に補助発問を組み合わせ、授業が深まるようにした。登場人物の心の葛藤を、補助発問によって揺さぶりながら考えるようにした。また、登場人物の葛藤場面では、話し合いを取り入れ、さまざまな意見を出し合いながら、ねらいとする価値に迫るようにした。ワークシートも自作して活用し、児童が自ら考えを深め、整理したりする機会として書く活動を取り入れ、さらに考えを深めることができるようにした。また、教師が児童の考え方を早めに捉えて、机間巡視による個別指導を行ったり、意図的な指名をすることによって、それぞれの思いが授業に反映し、他者理解に活かせるように工夫した。

(2) 内容項目の分析

- ・「子どもたちの実態・教師の願い」から、「ねらい」のアプローチの確認
- ・価値項目の捉え方について
- ・資料の内容分析
- ・効果的な資料の提示方法の確認（資料への理解・興味・関心はどうか）
- ・発問の分析（発問の意義）
- ・終末、説話について

(3) 言語活動の充実

- ・話し合い活動の工夫（ペアやグループ等の話し合い活動）
- ・発問の精選
- ・ワークシートの工夫（考え、且つその考えを如何に纏めるか）
- ・ロールプレイ、役割演技、動作化の取り入れ
（「気づき」「より深い理解」のねらい）

(4) 板書の工夫

- ・掲示物（挿絵等～登場人物や場面の変化の把握）
- ・登場人物の心情の表現方法（心情曲線、グラフ、心のメータ等）
- ・ねらいへの帰着、価値への導き⇒主体的児童の価値理解

3. 成果と課題

(1) 成果

○《板書の工夫》

児童の理解が深まった。色分けや、時系列に整理して書くこと、人物の心情を表すマークや写真を用いて板書をするなど、効果的に取り入れることができた。

○《グループ学習・話し合い活動》

話し合い等によってホワイトボードを用いた発表や、前に出てきて発表する等、お互いの考え・意見を聞き、自分の考えを主張することに慣れて行った。

○《新しい方法へのチャレンジ》

問題解決的な学習、体験的な活動等を取り入れた指導方法をすることが出来た。

○《範読について》

内容によって一読で読むことや、前半・後半に分けて読むことで、全体の流れを深めることができた。

○《シミュレーション授業》

内容の類似例（シミュレーション）を取り入れることで、より自分のこととして振り返る（主体性を持つ）ことができた。

○《評価について》

教科化に向け、一学期に全員が一部児童の評価を行い、実際に「評価文」を作成し、研修会を実施。学年末には全児童の評価を試行実施の予定。

(2) 課題

- 35時間以上の道徳授業をきっちりと実施すること。
- 子どもにとって自分が持っている考え以上の新しい発見、気づきが起こり得る授業を行う。
- 時間内で達成可能な「ねらい」を設定した授業を行う。
- 児童一人ひとりに対峙しながら、その価値についての考えを吸い上げ、授業の最後を書くワークシートを積み重ねることで、評価に繋げていく。
- 児童へのゆさぶりや、「ねらいとした価値」へ持っていくための発問の工夫。
- 児童一人ひとりの理解度の違いによってお互いの意見を認め合い、交流を深めていく。